

臨床検査で見る喫煙の影響について

喫煙の習慣がある人は健康に害があると言われていますが、検査項目に照らし合わせて見てみましょう。



- ・ニコチンが中性脂肪やLDL(悪玉)-コレステロールの合成を促しHDL(善玉)-コレステロールを減らします。⇒ 動脈硬化の原因になります。
- ・さらに血中のカテコールアミン濃度を上昇させます。⇒ 血圧や血糖を上昇させます。
- ・一酸化炭素が血中ヘモグロビンと結合し、体の酸素供給量が減るため代謝現象が起こり血液中の赤血球数、ヘモグロビン値、ヘマトクリット値が上昇し、白血球数も増加することがあります。⇒ 血液がドロドロ状態になり流れにくくなります。
- ・喫煙によって体内に発生したフリーラジカル(細胞の老化原因)を消すためにビタミンCやビタミンEが消費されます。⇒ 美容に必要なビタミン不足になります。
- ・ビタミンDの合成が抑制されます。⇒ カルシウム吸収の低下が起こり骨や歯の病気になるやすくなります。
- ・肺機能検査において1秒量が低下します。⇒ 気管支の慢性炎症や肺胞の破壊が原因とされているからです。

<喫煙によるデメリットについて>

喫煙期間が長くなるほど喫煙関連の3大疾患として「癌・呼吸器疾患・循環器疾患」にかかりやすくなるほか、歯周病や口臭等も見られたり全身の肌のしわ・かさつき・たるみに繋がります。また受動喫煙により家族や周りの人までリスクが拡大します。(タバコ代にお金もかかります…) **禁煙をお勧めします!**



当院は敷地内禁煙となっています!!

担当 : 検査課課長 村瀬 朗